



SPARC Enterprise™ M3000サーバ プロダクトノート

XCP 1090 版

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス



実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限りです。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われぬものとします。

目次

はじめに	vii
SPARC Enterprise M3000 サーバのサポートについて	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
マニュアルへのアクセス	viii
ご意見をお寄せください	viii
XCP 1090 に関する一般的な情報	1
XCP 1090の新着情報	1
サポートされるファームウェアおよびソフトウェア	2
Solarisパッチに関する情報	3
Emulex PCI Express (PCIe)カードのパッチ	3
XCP 1090へのアップデート	3
XSCFファームウェアのリセット	3
機能の問題と制限	4
電力モニタ機能およびエアーフローインディケータに関する留意点	4
NTPサーバに関する留意点	4
NTPサーバがローカルクロックを参照している場合の留意点	4
一般的な機能の問題と制限	6

ハードウェアに関する情報	8
200V電源を使用する場合の注意事項	8
DVDドライブ／ディスクの使用について	8
USBメモリの使用について	9
電源再投入時の注意	9
電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて	9
ハードウェアマニュアルの変更予定	10
『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』の変更予定	11
UPSコントローラー（UPC）の分岐接続	12
接続できる場合	13
接続できない場合	14
ソフトウェアに関する情報	15
電力モニタ機能	15
エアーフローインディケータ	16
XCPに関する問題と回避方法	16
XCP 1090で発生しうる問題	17
XCP 1090で解決された問題	19
XCP 1090以前で解決された問題	20
Solaris OSに関する問題と回避方法	22
すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題	22
Solaris 10 5/09で解決された問題	25
Solaris 10 10/08で解決された問題	27
ソフトウェアマニュアルの変更予定	28
システム内の縮退メモリの識別	29

はじめに

本書では、SPARC Enterprise™ M3000 サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

SPARC Enterprise M3000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M3000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M3000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム (OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<https://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M3000 サーバのインストール、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M3000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M3000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris OSなどのSun Microsystems製ソフトウェア関連マニュアル

<http://docs.sun.com/>

ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記URLの『お問い合わせ』から送付してください。

SPARC Enterpriseマニュアルのサイト:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

XCP 1090 に関する一般的な情報

ここでは、XCP 1090に関する一般的な情報について説明します。

- [「XCP 1090の新着情報」](#)
- [「サポートされるファームウェアおよびソフトウェア」](#)
- [「XCP 1090へのアップデート」](#)
- [「機能の問題と制限」](#)

XCP 1090の新着情報

本リリースでの新しい特徴は以下のとおりです。

- 新しく以下のコマンドが追加されました。
 - `showdateoffset(8)`

詳細については、`showdateoffset(8)`コマンドのマニュアルページを参照してください。

- 新しく以下のコマンドがサポートされるようになりました。
 - `setsunmc(8)`
 - `showsunmc(8)`

詳細については、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

サポートされるファームウェアおよびソフトウェア

本リリースでは、以下のファームウェアおよびオペレーティングシステムがサポートされています。

表 1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

ファームウェアおよびオペレーティングシステム	バージョン
XSCF Control Package (XCP)	1090
Solarisオペレーティングシステム	Solaris 10 10/08以降、または10 5/08、および必須パッチ

注 - XCP 1080は、SPARC Enterprise™ M3000 サーバでサポートされるXCPの、最初のバージョンです。

注 - 8GB DIMMは、XCP 1081以降でサポートされます。

XCPは、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/download/firmware/>

XSCF Webは、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Webの動作することが確認されているウェブブラウザは、表 2のとおりです。

表 2 動作確認済みのウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Microsoft® Internet Explorer	6.0および7.0
Firefox (Solaris 10)	2.0*

* XSCF WebではFirefox 3はサポートされていません。

Solarisパッチに関する情報

SPARC Enterprise M3000 サーバでSolaris™ 10 5/08を使用している場合は、以下のパッチが必要です。パッチは以下に記載されている順番に適用してください。

- 119254-59
- 138866-01
- 137137-09

なお、Solaris 10 10/08以降を使用している場合は、必要なパッチはありません。

その他のSolaris OSの情報については、22ページの「[Solaris OSに関する問題と回避方法](#)」を参照してください。

注 – viiページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

Emulex PCI Express (PCIe)カードのパッチ

以下のEmulexカードは、パッチ120222-26で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA
- XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA

XCP 1090へのアップデート

XCP 1090へのアップデート手順については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

XSCFファームウェアのリセット

ファームウェアをXCP 1090にアップデートしたあとは、`rebootxscf(8)`コマンドを使用して、必ずXSCFをリセットしてください。

機能の問題と制限

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

電力モニタ機能およびエアフローインディケータに関する留意点

- 以下のような場合、MIB情報やshowenvironment power/showenvironment airコマンドおよびXSCF Webで、消費電力および排気量の値が正しく表示されないことがあります。1分後に、再度、値を確認してください。
 - 本体装置の電源投入/切断中、あるいは投入/切断完了後しばらくの間
 - 電源ユニットの活性交換中、あるいは活性交換完了後しばらくの間
- 電力モニタ機能およびエアフローインディケータで表示される数値は、それぞれ、本体装置の消費電力および排気量を示します。周辺装置に対する数値は含まれません。

NTPサーバに関する留意点

- XSCFをドメインのNTPサーバとする場合は、XSCFが参照するDNSサーバおよびNTPサーバのICMPプロトコルをブロックしないように設定してください。
- ドメインはXSCFをNTPサーバとすることを推奨します。この場合、以下の注意が必要です。
 - XSCFは、外部NTPサーバに接続しなければなりません。
 - XSCFのほか、1つまたは複数のNTPサーバをドメインに接続する場合は、XSCFに指定したNTPサーバと同じサーバに接続してください。

NTPの詳細については、当社技術員にお問い合わせください。NTP設定の詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

NTPサーバがローカルクロックを参照している場合の留意点

XSCFの参照するNTPサーバが、サーバ自身のシステム時刻(ローカルクロック)を参照し、そのローカルクロックにアドレス「127.127.1.0」が設定されている場合、XSCFで時刻同期できないことがあります。

XSCF自身の持つローカルクロックのアドレスは「127.127.1.0」で固定となっており、**showntp** コマンドを実行すると、XSCFが参照しているNTPサーバ自身のクロックソース、およびXSCF自身のローカルクロックのアドレスが参照できます。

```
XSCF> showntp -l
remote refid st t when poll reach delay offset jitter
=====
192.168.1.2 LOCAL(0) 3 u 10 1024 377 0.000 0.000 0.000
*127.127.1.0 .LOCL. 5 l 28 64 377 0.000 0.000 0.008
```

出力された2つのNTPサーバのうち、上段(192.168.1.2)は**setntp(8)**コマンドで設定されたNTPサーバです。**refid**がLOCAL(0)となっているため、このNTPサーバのクロックソースには、アドレスが「127.127.1.0」のローカルクロックが設定されています。つまり、下段はXSCF自身のローカルクロックです。XSCF自身のローカルクロックのアドレスは「127.127.1.0」で固定となっています。これにより、NTPサーバ(192.168.1.2)はXSCFの時刻同期の対象から外れてしまうため、XSCFは自身のローカルクロックに時刻同期することになります。

いずれかの方法で回避することより、**setntp(8)**コマンドで設定したNTPサーバと正しく時刻同期できるようになります。

- XSCFに設定されているNTPサーバが参照するクロックソースを変更する

showntp -l コマンドを使用して、XSCFに設定されているNTPサーバのクロックソースを確認します。**refid**がLOCAL(0)と出力されるNTPサーバは、アドレスが「127.127.1.0」のローカルクロックを参照しているため、別のクロックソースを参照するように変更してください。

NTPサーバのクロックソースを変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

- NTPサーバのローカルクロックのアドレスを変更する

XSCFが参照するNTPサーバの、ローカルクロックのアドレスを「127.127.1.1」または「127.127.1.2」または「127.127.1.3」に変更します。Solaris OSの/etc/inet/ntp.confを変更します。変更を有効にするには、NTPデーモンの再起動が必要です。

NTPサーバのローカルクロックのアドレスを変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

● NTPサーバのstratum値を変更する

XSCFが参照するNTPサーバのstratum値を1に変更します。stratum値が1のNTPサーバは最上位のクロックソースとなり、refidは持ちません。したがって、XSCF自身のローカルクロックのアドレスと同じになることはありません。

NTPサーバのstratum値を変更する場合は、他のNTPクライアントに影響がないことを、事前に確認してください。

一般的な機能の問題と制限

- setarchiving(8)、showarchiving(8)コマンド、およびXSCF WebのLog Archivesメニューによるログアーカイブ機能は現時点ではサポートしていません。
- 外部電源制御装置 (F7973RC1) の外部電源制御インターフェース (EPC)を使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号(電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- 以下の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。
root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、default
-
- XSCF Webを使用する場合は、ブラウザのキャッシュ機能を無効にしてください。キャッシュを有効にしておくと、キャッシュされた古いデータがWebページに表示されてしまうことがあります。キャッシュを無効にする方法については、ご使用のブラウザによって、以下のように設定してください。
 - Internet Explorer 6および7:
[ツール]-[インターネット オプション]-[詳細設定]タブにある「暗号化されたページをディスクに保存しない」をチェックします。
 - Netscape 7.1以降:
[編集]-[設定]-[詳細]-[キャッシュ]-[キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較]の項目で「ページにアクセスするたび」を選択します。
 - Firefox 2:
アドレス欄に「about:config」と入力し、フィルタ欄に「cache」と入力します。リストにある「browser.cache.check_doc_frequency」の設定値を「1」に変更します。
- XSCF Webを使用し、XCPのインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上にSession ID errorが表示されることがあります。また、Autologout設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、ファームウェアア

アップデートの際に**Internal Server Error**が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、**XSCF Web**に接続しなおしてください。

- **XSCF Web**を使用する時、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合は、プラグインを削除する、またはポップアップブロック設定を無効にしてください。
- **XSCF-LAN**はオートネゴシエーションに対応しています。**XSCF-LAN**と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、**IEEE802.3**の規約によって、**XSCF-LAN**は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。**XSCF-LAN**と接続するネットワーク機器は、必ずオートネゴシエーションに設定してください。
- `restoredefaults(8)` コマンドは、現時点ではサポートされていません。
- `snapshot(8)` コマンドの `-e`、`-p`、`-l` オプションは現時点ではサポートされません。

ハードウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 「200V電源を使用する場合の注意事項」
- 「DVDドライブ／ディスクの使用について」
- 「USBメモリの使用について」
- 「電源再投入時の注意」
- 「電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて」
- 「ハードウェアマニュアルの変更予定」
- 「UPSコントローラー（UPC）の分岐接続」

200V電源を使用する場合の注意事項

B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に15Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

DVDドライブ／ディスクの使用について

本体装置に搭載されているDVDドライブを使用する際の注意事項があります。次のWebサイトから『SPARC EnterpriseでのDVDドライブ／ディスクの使用について』を参照してください。

URL:

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

USBメモリの使用について

dumpconfig(8)、restoreconfig(8)、snapshot(8)コマンド実行時に、データの保存先としてUSBメモリを指定する場合は、あらかじめ、媒体となるUSBメモリをご用意ください。

なお、保存されたデータにはシステムに関する情報が含まれています。USBメモリをご利用になる場合には、セキュリティ保持の観点から、データが保存されたUSBメモリの管理について留意が必要となります。

現在販売されているすべてのメーカーのUSBメモリに対して、XSCFとの接続性および動作を保証しているわけではありません。ご使用のUSBメモリによっては、XSCFファームウェアのエラーやリセットなどの異常が発生する場合も考えられます。そのような異常が発生した場合には、ただちに、USBメモリの使用を中止してください。

XSCF用USBポートにUSBメモリを接続する場合は、直接、USBポートにUSBメモリを接続してください。USBハブやUSB延長ケーブルなどを介して接続すると、エラーの要因となる場合があります。

電源再投入時の注意

電源ケーブルの引き抜き、または分電盤のブレーカーによって、本体装置の電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。

電源制御とオペレーターパネルのモードスイッチについて

RCI機能によるリモート電源制御や自動電源制御機能（APCS）使用時の電源投入／切断は、オペレーターパネルのモードスイッチを切り替えて制御できます。詳細は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』「はじめに」の「制限および注意事項」を参照してください。

ハードウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのハードウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のハードウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

表 3 では、マニュアルの変更予定を示します。

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画 マニュアル	第2章	「電力モニタ機能」および「エアフローインディケータ」に関する記事を追加します。
SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画 マニュアル	2-4	「表2.4 電源コードとコネクタ形状」 香港の電源コードタイプについて、IEC 60320 C14と記載されていますが、正しくはBS1363です。 以下の注意文を追加します。 注 - B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に15Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。
SPARC Enterprise M3000 サーバ 製品概要	第1章	「電力モニタ機能」および「エアフローインディケータ」に関する記事を追加します。
SPARC Enterprise M3000 サーバ インストール ションガイド	2-4	「表2.4 電源コードとコネクタ形状」 香港の電源コードタイプについて、IEC 60320 C14と記載されていますが、正しくはBS1363です。 以下の注意文を追加します。 注 - B型プラグを持つ本体装置においては、本体装置外に15Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。
	3-6	「3.4.2 XSCF の初期設定」 設定項目の中にドメイン/ サービスプロセッサ間通信プロトコル(DSCP)が明記されます。

表 3 ハードウェアマニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000 サーバ サービス マニュアル	2-6	「表2.2 モードスイッチの機能」を変更します。11ページの「 モードスイッチの機能 」を参照してください。
	4-9	「4.5.1.1 XSCFコマンドを使用した電源切断」を変更します。11ページの「 XSCFコマンドを使用した電源切断 」を参照してください。

『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』の変更予定

次の情報は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』の情報よりも優先されます。

モードスイッチの機能

ここでは、2-6ページの「表2.2 モードスイッチの機能」を変更します。

表 2.2 モードスイッチの機能

機能 状態の定義	モードスイッチ	
	Locked	Service
Break 信号の受信抑止	有効。setdomainmode を使用してドメインごとにBreak 信号の受信/受信抑止を指定可能。	無効
POWER スイッチによる電源投入/ 切断	電源投入のみ有効	有効

XSCFコマンドを使用した電源切断

ここでは、4-9ページの「4.5.1.1 XSCFコマンドを使用した電源切断」を変更します。

1. 本体装置の電源を切断することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをバックアップします。

3. platadmまたはfieldeng権限を持つユーザーがXSCFシェルにログインして、poweroff コマンドを入力します。

```
XSCF> poweroff -a
```

poweroff コマンドを使用すると、次のアクティビティが実行されます。

- Solaris OS が完全にシャットダウンします。
- 本体装置の電源を切断し、本体装置がスタンバイモードになります（XSCF ユニッ
トは電源が投入されたままになります）。

詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

4. オペレーターパネルのPOWER LED が消灯していることを確認します。
5. AC電源からすべての電源コードを抜きます。



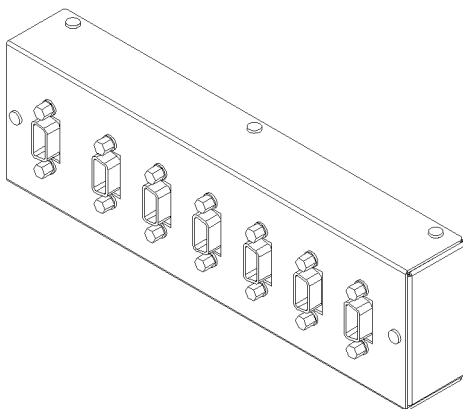
注意 – 電源コードを抜かないと電氣的故障が発生する可能性があります。本体装置の電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

UPSコントローラー（UPC）の分岐接続

UPC 6分岐コネクタを使用すると、最大6台の無停電電源装置（UPS）を接続できます。

UPC 6分岐コネクタの外観図を [図 1](#) に示します。

図 1 UPC 6分岐コネクタ



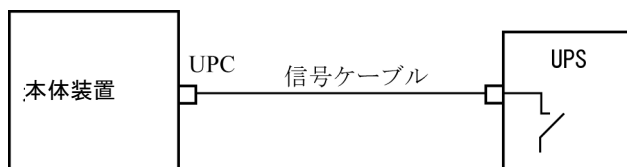
本体装置のUPCは、以下に説明している条件を満たせば、分岐コネクタを使用して複数台のUPSに接続できます。ここでは、本体装置のUPCの分岐接続の条件について説明します。

接続できる場合

UPSと本体装置が以下の接続形態の場合には、信号ケーブルを接続できます。

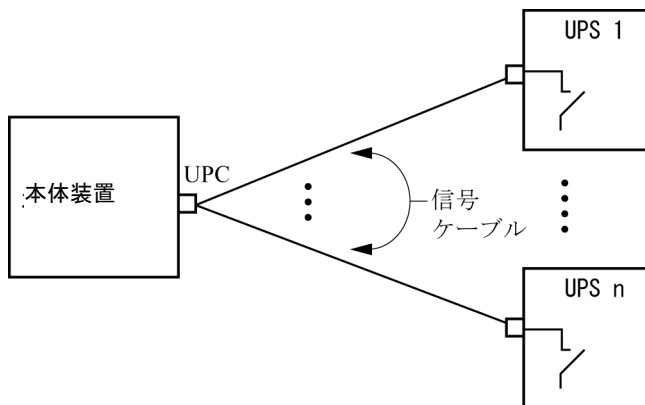
- 1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 2参照）
- 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合（図 3参照）

図 2 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



重要 – 1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合、本体装置からの送出信号（ER信号）の条件によっては、信号ケーブルが接続できないことがあります。この接続形態で接続する場合には、当社技術員にご相談ください。

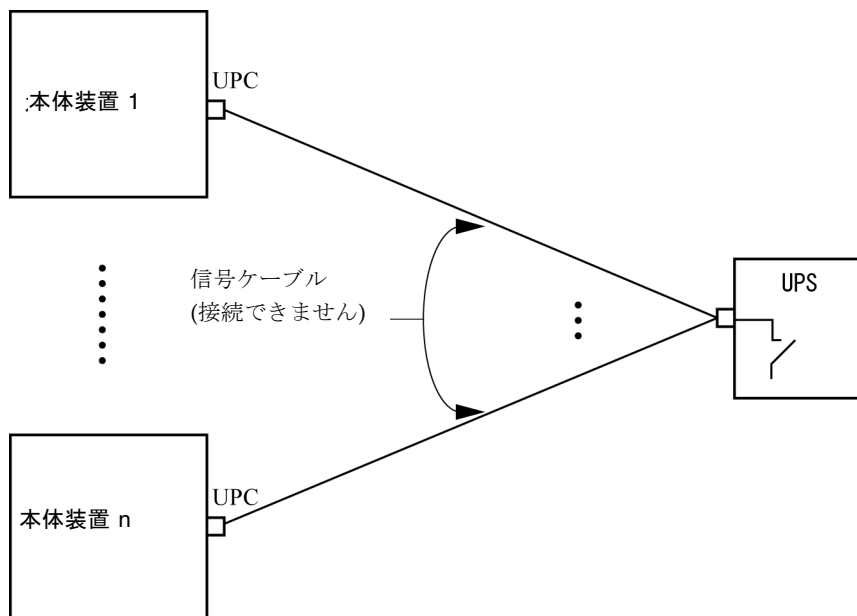
図 3 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続
(1台の本体装置に複数台のUPSを接続する場合)



接続できない場合

複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合（図 4参照）、UPSと本体装置との信号ケーブルの接続はできません。

図 4 UPSと本体装置との信号ケーブルの接続ができない場合
(複数台の本体装置に1台のUPSを接続する場合)



ソフトウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 「電力モニタ機能」
- 「エアフローインディケータ」
- 「XCPに関する問題と回避方法」
- 「Solaris OSに関する問題と回避方法」
- 「ソフトウェアマニュアルの変更予定」
- 「システム内の縮退メモリの識別」

電力モニタ機能

XCP 1081から、SPARC Enterprise M3000サーバに対して、電力モニタ機能が追加されました。電力モニタ機能は、SPARC Enterprise M3000 サーバが稼働している間に消費された電力を確認します。

消費電力を表示するには、`showenvironment power`コマンドを使用します。

```
XSCF> showenvironment power
Permitted AC power consumption:470W
Actual AC power consumption:450W
```

注 – 電力モニタの測定値は参考値です。本体装置の消費電力値は、使用している電源、CPUの種類、システム構成や負荷などの条件によって異なります。

`showenvironment(8)`コマンドの詳細については、マニュアルページを参照してください。SPARC Enterprise M3000サーバ設置の詳細については、『SPARC Enterprise M3000サーバ設置計画マニュアル』を参照してください。

消費電力のデータは、SNMPエージェント機能を使用して取得することもできます。SNMPエージェント機能を使用して消費電力のデータを取得するには、最新のXSCF拡張MIB定義ファイルをSNMPマネージャにインストールする必要があります。XSCF拡張MIB定義ファイルの詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』を参照してください。

エアフローインディケータ

XCP 1082から、SPARC Enterprise M3000サーバに対して、エアフローインディケータが追加されました。エアフローインディケータは、SPARC Enterprise M3000サーバの稼働中に排出された空気量を確認します。

排気量を表示するには、`showenvironment air`コマンドを使用します。

```
XSCF> showenvironment air
Air Flow:63CMH
```

注 - エアフローインディケータの測定値は、参考値です。

`showenvironment(8)`コマンドの詳細については、マニュアルページを参照してください。SPARC Enterprise M3000サーバ設置の詳細については、『SPARC Enterprise M3000サーバ設置計画マニュアル』および『SPARC Enterprise M3000サーバ インストールガイド』を参照してください。

SNMPエージェント機能を使用して排気量のデータを取得することもできます。SNMPエージェント機能を使用して排気量のデータを取得するには、最新のXSCF拡張MIB定義ファイルをSNMPマネージャにインストールする必要があります。XSCF拡張MIB定義ファイルの詳細については、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバXSCFユーザーズガイド』を参照してください。

XCPに関する問題と回避方法

この章では、XCPに関する問題について記載します。表 4、表 5、表 6はご使用のXCP版数によって発生しうる問題を示しています。

XCP 1090で発生しうる問題

表 4 に、XCP 1090で発生しうる問題とこれらの問題に対する回避方法を示します。

表 4 XCP 1090 で発生しうる問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-009	XSCF動作中、プロセスダウン、watchdogタイムアウトまたはハングアップが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリセットする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、ドメインを停止後、本体装置の電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。電源を再投入する場合は、電源を切断したあと30秒以上待ってから電源を投入してください。
RTIF1-071102-002	snmpデーモンが終了する場合があります。	setsnmp enableコマンドを実行し、snmpデーモンを再起動してください。
RTIF1-080725-001	setsnmp addv3traphost を実行した場合、Trap ホストが動作していない、ユーザー名やパスワードの間違いなどの理由で、認証に失敗すると、以降の SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。 SNMP TRAP ホストが起動されていることを確認の上、正しいユーザー名で setsnmp(8) コマンドを再度実行してください。
RTIF1-080725-002	SNMPv3 トラップを設定している場合、XSCFで watchdog timeout が発生し XSCF がリセットされると、以降の SNMP Trap が通知されません。	XSCF をリセットしてください。
RTIF1-081006-011	SNMP トラップホストの設定を変更しても、setsnmp disable と setsnmp enable を実行するまで反映されません。	SNMP の設定を変更した場合は、以下のコマンドを実行してください。 XSCF> setsnmp disable XSCF> setsnmp enable
RTIF1-081016-002	FRUが（システムの電源切断を伴い）停止交換されたとき、（電源投入後）監視プロセスが、発生した交換操作を示すような監視メッセージログのエントリーを生成しない場合があります。	有効な回避方法はありません。

表 4 XCP 1090 で発生しうる問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081225-001	settimezone -c adddst コマンドで、タイムゾーンの略称とサマータイム名を8文字以上に設定すると、showlogs コマンド実行時に Segmentation fault が発生し、コマンドが異常終了します。	タイムゾーンの略称とサマータイム名は7文字以内で指定してください。
RTIF1-090108-003	XSCF Web で表示される Last Update の日時が更新されない場合があります。	ブラウザ画面を更新してください。
RTIF1-090427-002	XSCF のリセットあるいは切り替え発生後に、LDAP サーバを使用した XSCF へのログインができなくなります。	有効な回避方法はありません。 この現象が発生した場合は、アクティブ XSCF へ初期アカウントでログインしてから、以下のコマンドを実行し、証明書チェーンを再インポートしてください。 'setldap -c <remote file>'
RTIF1-090427-004	LDAP サーバの設定において、XSCF Web と XSCF シェルの設定可能文字数が一致していません。XSCF Web では128文字までしか入力できません。	129文字以上を設定する場合はXSCFシェルを使用してください。
RTIF1-090427-005	setpasswordpolicy(8) コマンドで Different Characters に "9999999999"(10桁)を設定したあと、showpasswordpolicy(8) コマンドで表示すると"-1"になってしまいます。	有効な回避方法はありません。 XSCF Web を使用してください。
RTIF1-090729-001	sethttps(8) コマンドで自己署名された Web サーバ証明書を作成する場合、指定したパラメータの総文字数が100文字を超えると internal error となり、Web サーバ証明書の作成に失敗することがあります。	指定するパラメータの総文字数を100文字以下にして、sethttps(8) コマンドを再実行してください。

XCP 1090で解決された問題

表 5 に、XCP 1090で解決された問題を示します。

表 5 XCP 1090 で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-081006-005	XSCF Webのネットワーク設定では、 <code>setnetwork -r</code> コマンドに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名に <code>localhost</code> や <code>localdomain</code> を指定すると" <code>SessionID has expired</code> "とエラーメッセージが出力されます。	XSCF シェルで <code>setnetwork -r</code> コマンドを実行してください。
RTIF1-090108-001 6440061	ドメインのコンソールに、 <code>ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)</code> というメッセージが表示されることがあります。	このメッセージは無視しても差し支えありません。
RTIF1-090430-001	XSCFで <code>https</code> の設定(自己認証局)後にWebサーバ証明書を作成しても、 <code>https</code> が有効になりません。	自己認証局を設定する場合は、空白文字を指定しないでください。
RTIF1-090427-001	XSCFとSolaris OSが通信を行うための装置内ネットワークインターフェース(<code>ppp</code>)が、正常な状態であるにもかかわらず、 <code>SNMP MIB</code> で異常(ダウン)状態と通知されます。	有効な回避方法ははありません。
RTIF1-090122-001	PSUが復電する前に、" <code>Power recovery</code> " のメッセージが表示されます。	" <code>Power recovery</code> " のメッセージが表示されたあとに、ほかのPSUの電源を切断する場合は、60秒待ってください。
RTIF1-090508-001	10 Gigabit Ethernetカード(SE0X7HE1F)が搭載されたドメインで、 <code>OpenBoot PROM</code> 環境変数 <code>diag-switch?</code> を <code>true</code> に設定していると、コンソールに以下のワーニングメッセージが出力されるとともに、エラーログに" <code>Msg: Device error (FCode informed error)</code> "が記録されます。 <code>WARNING: /pci@7,700000: FCODE map-in doesn't match decoded register type;</code> また、 <code>showstatus(8)</code> コマンドを実行すると、該当するカードが搭載されたFRUに対して" <code>Degraded</code> "と表示される場合があります。	これらすべての出力は無視しても差し支えありません。 これらの出力を回避する場合は、 <code>ok</code> プロンプトで以下のコマンドを実行し、 <code>OpenBoot PROM</code> 環境変数 <code>diag-switch?</code> を <code>false</code> に設定してください。 <code>setenv diag-switch? false</code>

XCP 1090以前で解決された問題

表 6 に、XCP 1090以前で解決された問題を示します。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題

ID	説明	回避方法
RTIF1-070824-001	ドメインの電源連動機能のリモート電源制御モードを有効にしている場合、マザーボードユニット交換後、RCIによる電源連動が作動しなくなります。	マザーボードユニット交換後、RCIを再構築し、リモート電源制御モードを設定してください。
RTIF1-080725-004	XSCF シェルでサマータイムを設定すると、XSCF Web の Logs メニューで表示される時刻が、正しく表示されません。	有効な回避方法はありません。 XSCF シェルの <code>showlogs(8)</code> コマンドを使用してください。
RTIF1-081006-001	"XSCF FMEM write error"のエラーログが記録され、ファームウェアアップデートが失敗する場合があります。	システムの電源をいったん切断 (AC OFF) してから、再投入 (AC ON) してください。その後、再度ファームウェアアップデートを実行してください。
RTIF1-081006-002	<code>setemailreport(8)</code> コマンドで、SMTP アドレスに 255 文字以上指定するとエラーになります。	SMTP アドレスに 255 文字以上指定しないでください。
RTIF1-081006-003	ドメイン動作中、XSCF ユニットの故障が原因で XSCF がリセットされたあと、ハードウェアの状態を表示すると、CPU とメモリのステータスが <code>Deconfigure</code> と表示されます。	マザーボードユニットだけ交換してください。このときメモリに故障がなければ、メモリを交換する必要はありません。
RTIF1-081006-004	ファームウェアアップデート中に以下のメッセージが出力され、XSCF がパニックすることがあります。 <code>kernel BUG in jfffs2_do_read_inode at fs/jfffs2/readinode.c:XXX!</code>	XSCF をリセットしたあと <code>flashupdate(8)</code> コマンドを使用して、再度、ファームウェアアップデートを行ってください。
RTIF1-081006-006	XSCF Web でパニックログを表示すると、メッセージの先頭部分から表示されないことがあります。	表示内容が不足している場合は、XSCF シェルで <code>showlogs panic</code> コマンドを実行してください。
RTIF1-081006-007	<code>password(8)</code> コマンドの <code>[user]</code> オペランドは、ドキュメントでは省略可となっているにもかかわらず、オプション設定時に指定しない場合はエラーとなります。	有効な回避方法はありません。 オプションを設定した場合は、 <code>user</code> オペランドを指定して <code>password(8)</code> コマンドを実行してください。
RTIF1-081016-001	UPS装置が停電を検知しても、SNMP Trap が通知されません。	有効な回避方法はありません。

表 6 XCP 1090 以前で解決された問題 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-081016-003	<p>Internet Explorer 6 または 7 で、XSCF Web の [Setting]-[Audit] メニューから [Add Policy] を選択したときに表示されるポップアップ画面上で、[Reset] ボタンをクリックしたあと [OK] ボタンをクリックすると、以下のメッセージが出力され、ログアウトされる場合があります。</p> <p>Error Session Error Session ID has been expired</p>	<p>XSCF Web に再ログインしてください。ポップアップ画面の [User] テキストボックス内のテキストを消去する場合は、[Reset] ボタンを使用せずに、BackSpace キーを使用してください。</p>
RTIF1-081030-002	<p>設定されているタイムゾーンの略称が、3 文字でない場合、XSCF Web の Error Log ページでエラーログが表示されません。</p> <p>また、XSCF Web の Panic Log および IPL Message Log ページのテーブル上部にあるログ採取時刻が "---" と表示されます。</p>	<p>XSCF シェルで showlogs(8) コマンドを使用してください。</p>
RTIF1-081104-001	<p>PCI スロットの異常が検出された場合、監視メッセージログが登録されない場合があります。</p>	<p>有効な回避方法はありません。</p> <p>PCI スロットの故障情報は、showlogs error コマンドまたは fmdump コマンドで確認してください。</p>
RTIF1-090108-002	<p>二系統受電構成の場合、片方の電源系統で停電 / 復電が繰り返し発生すると、全ドメインの電源が強制的に切断されます。また、強制的に電源が切断されたあとの復電時に、PSU 構成違反がエラーログに登録され、復電が開始されない場合があります。</p>	<p>電源ケーブルの抜き差しが必要です。</p>
RTIF1-090115-001	<p>settelnet -c disable コマンドを実行すると、ただちに Telnet サービスは停止します。ただし、rebootxscf(8) コマンドで XSCF をリセットしないと、次回 Telnet サービスを再開する際に、失敗する場合があります。</p>	<p>Telnet サービスを停止した後は、rebootxscf(8) コマンドを実行して、XSCF をリセットしてください。</p>
RTIF1-090220-001	<p>複数の本体装置と I/O 装置が RCI で接続されたシステムの場合、1 台の本体装置の電源を投入しても、I/O 装置の電源が投入されないことがあります。</p>	<p>すべての本体装置の電源を投入してください。</p>
RTIF1-090220-002	<p>マザーボードユニットを交換すると、RCI の電源連動設定がデフォルト値にもどってしまいます。</p>	<p>電源連動設定をデフォルト値以外に設定している場合は、マザーボードユニットを交換したあとに、setpwrmode(1M) コマンドを使用して電源連動設定を再度行ってください。</p>

Solaris OSに関する問題と回避方法

この章では、Solaris OSに関する情報について記載します。表 7、表 8、表 9はご使用のSolaris OSによって発生しうる問題を示しています。

すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題

リリースされているすべてのバージョンのSolaris OSで発生しうる問題を、表 7に示します。

表 7 すべてのバージョンのSolaris OSに関連する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを请使用してください。
6519290	/tmp (tmpfs) に巨大なファイルや大量のファイルを作成した場合、または、復旧可能な軽度のメモリ不足が発生した場合、スワップデバイスへのI/Oが大量に発行され、システムがスロウダウンすることがあります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインを再起動してください。 set maxfastscan=0x2000
6531036	ネットワークインストール後、network initialization failed のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	有効な回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。 svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95. svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59.	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。 # svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs
6537511	セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6572827	prtdiag -v コマンドで PCI バスのタイプが間違っていて出力されます。PCI-X リーフデバイスには「PCI」、古い PCI デバイスには「UNKN」と表示されます。	有効な回避方法はありません。
6608404	以下のカードを搭載した場合にホットプラグ操作を行うと、他のネットワークデバイスがフェイルすることがあります。 X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP	この問題を回避するために、このカードを搭載しないでください。
6625734	シングルメイン環境下で、大量のプロセッサが搭載されているシステムでは、一定の作業負荷がかかるとパフォーマンスが低下することがあります。	アプリケーションプロセッサをバインドする場合はプロセッサセットを使用するか、プロセッサをグループ化させるために LWP を使用してください。詳細は、Solaris の psrset(1M) コマンドのマニュアルページを参照してください。

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu error</code> が発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> が失敗し、FMA サービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1-cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT-ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</pre>	<p>FMA サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当した DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p>以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># fmadm repair <i>fnri</i> <i>uuid</i> # fmadm rotate</pre>

表 7 すべてのバージョンの Solaris OS に関連する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6723202	SPARC Enterprise M3000 サーバのオンボード SAS/LSI コントローラを使用してハードウェア RAID を構築するために、raidctl コマンドを使用することはできません。 raidctl コマンドはディスクやコントローラのステータスを確認したり、システム上にインストールされている PCI ホストバスアダプター (HBA) に対して使用することができます。	有効な回避方法はありません。この問題は解決する予定はありません。
6745410	システムを boot しないような kadb のオプションは、ブートプログラムで無視されてしまいます。	kadb を使用しないで、kmdb を使用してください。
6765239	複数の SAS ターゲットにつながる SAS デバイスが、オンボードの外部 SAS インターフェースに接続されている場合、正常に動作しません。SAS デバイスのターゲット ID のリストが再起動後に変更されてしまいます。	富士通製 SAS カード (SE0X7SA1F/SE0X7SA1X) を使用してください。また、この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。

Solaris 10 5/09 で解決された問題

Solaris 10 5/09 で解決された問題を表 8 に示します。Solaris 10 5/09 より以前の製品では発生することがあります。

表 8 Solaris 10 5/09 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリに対して DR 操作を行っているときに XSCF をリセットすると、ドメインがパニックする場合があります。	これは、パッチ 139555-08 で修正されました。 [回避方法] DR 操作中に XSCF をリセットしないでください。DR 操作が終了してからリセットを開始してください。
6623226	Solaris の lockstat(1M) コマンドや dtrace lockstat provider で、システムパニックが発生することがあります。	これは、パッチ 140336-01 で修正されました。 [回避方法] lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat provider を使用しないでください。

表 8 Solaris 10 5/09 で解決された問題 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6680733	Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC)および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に高負荷がかかっていると、パニックを起こす場合があります。	これは、パッチ139570-01で修正されました。
6689757	Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF)に対して、XFP光トランシーバーをひとつだけ、または誤った方法でインストールしている場合には、コンソールに、以下のメッセージが出力されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	これは、パッチ139570-01で修正されました。 【回避方法】 両方のXFP光トランシーバーがしっかりハウジング内に収まっていることを確認してください。 インテル社製XFP光トランシーバーとSun社製のXFP光トランシーバーを同じアダプタ内に混在させないでください。 ポートがXFP光トランシーバーを含まない場合、あるいは使用されていないトランシーバーを含む場合は、そのポートに対してifconfig plumbを実行しないでください。
6725885	cfgadm コマンドを使用すると、SPARC Enterprise M3000 サーバでは 存在しないシステムボード (SB1 から SB15) が表示されてしまいます。	これは、パッチ 140401-01 で修正されました。 cfgadmコマンドの出力にある、SB1からSB15は無視してください。

Solaris 10 10/08で解決された問題

Solaris 10 10/08で解決された問題を表 9に示します。Solaris 10 10/08より以前の製品では発生することがあります。

表 9 Solaris 10 10/08 で解決された問題

CR ID	説明	回避方法
6679370	<p>Solaris OS 起動中に、コンソールに以下のメッセージが出力される場合があります。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCI- Express subsystem. Refer to http://sun.com/msg/SUN4- 8000-75 for more information. ...</pre>	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>注 - 137137-09 以降を適用する前に、<code>/etc/system</code> から以下の設定を削除してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre> <p>[回避方法]</p> <p><code>/etc/system</code>に以下の設定を追加し、ドメインを再起動してください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6720261	<p>ドメインでSolaris 10 5/08が稼働している場合、システムがパニックまたはトラップを起こすことがあります。</p>	<p>これは、パッチ 137137-09 で修正されました。</p> <p>[回避方法]</p> <p>システム設定ファイルである <code>/etc/system</code> に、以下の変数を必ず設定してください。</p> <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre> <p>そのあと、ドメインを再起動してください。</p>

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 10 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 10 ソフトウェアマニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCF リファレンスマニュアルおよびマニュアルページ	setupfru(8)コマンド	詳細説明に以下の内容が追加されます。 M8000/M9000サーバでは、2つのCPUモジュールが搭載されたCPU/メモリボードユニットをQuad-XSBに設定できます。この場合、CPUモジュールまたはメモリの含まれていないXSBには、システムから"configuration error"が出力されます。
	setdualpowerfeed(8)コマンド	説明に以下の内容が追加されます。 100V電源のM4000/M5000サーバでは、二系統受電モードを使用できません。
	showenvironment(8)コマンド	説明に以下の内容が追加されます。 排気量情報はM4000/M5000サーバではサポートされていません。 説明にある「消費電力情報はM3000/M4000/M5000サーバで表示できます。」という記述は、「消費電力情報はM3000サーバだけで表示できます。」に変更されます。

システム内の縮退メモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showstatus
```

以下は、マザーボード上のDIMM番号0Aのメモリが縮退された例を示しています。

```
XSCF> showstatus
      MBU_A Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

